

子宮体癌術後に上行結腸転移悪性リンパ腫を認めた 1 例

大阪府立成人病センター外科¹⁾, 同 病理診断科²⁾, 医療法人平和会吉田病院外科³⁾

津川 猛士^{1,3)} 亀山 雅男¹⁾ 村田 幸平¹⁾ 大東 弘明¹⁾

平塚 正弘¹⁾ 佐々木 洋¹⁾ 甲 利幸¹⁾ 石川 治¹⁾

今岡 真義¹⁾ 春日井 務²⁾

子宮体部から大腸への転移は、自験例を含め本邦報告 2 例とまれであり、今回、子宮体癌の上行結腸転移に、悪性リンパ腫を合併した 1 切除例を経験したので報告する。症例は、58歳の女性。子宮体癌(高分化腺癌)にて準広範子宮全摘術施行。2年8か月後に腔断端再発をきたし、CDDP 120mg, CPA 1,000mg の投与を 3クール、骨盤内に総量60Gy の放射線照射を行った。1か月後右上腹部痛出現、上行結腸に径4cm 大の腫瘤を認め、結腸右半切除(D3郭清)施行。迅速組織診にて、骨盤腔内に子宮体癌の再燃を確認、一方、結腸切除標本における病巣の主座は粘膜下層にあり、組織像も酷似しており子宮体癌の大腸転移と診断した。また、リンパ節の迅速組織診にて悪性リンパ腫の所見を得た。現在、再燃傾向なく生存中。放射線や化学療法が奏効しやすい子宮癌の術後には、造血管腫瘍も念頭に置いたフォローが望まれる。

はじめに

大腸は、転移を受ける側の臓器の中でも、一般的に転移を受けにくい臓器と考えられており、大腸癌全体を原発性と続発性に分けると、続発性のものは0.1~1%と少ない¹⁾。なかでも子宮体癌から大腸への転移はまれであり、本邦報告は自験例を含め2例であった。今回、子宮体癌術後の上行結腸転移に悪性リンパ腫を合併した1例を経験したので報告する。なお、病理学的記載は大腸癌取り扱い規約によった²⁾。

症 例

患者: 58歳, 女性

主訴: 右側腹部痛

既往歴: 特記すべきことなし。

家族歴: 実父が胃癌にて死亡。

現病歴: 1994年11月30日、子宮体癌(高分化腺癌, T1a, N0, Mo)にて当センター婦人科で準広範子宮全摘術を施行。補助化学療法として5 FU 200mg/日の経口投与を2年間受けた。2年8か月経過した1997年8月、腔断端部に径8cm 大の再発をきたし、化学療法としてシスプラチン120mg, シクロフォスファミド200mg × 5日間の経静脈投与を3クール、骨盤内に総量60Gy の放射線照射を行った。1998年2月末頃より右上腹

Fig. 1 Computed tomogram of upper abdomen showed the wall thickening of the ascending colon.



部痛が出現したため、腹部エコー検査、上腹部CT検査を施行した。上行結腸に径4cm 大の腫瘤を認め、大腸内視鏡検査にて上行結腸腫瘍の診断のもと同年3月25日当科に紹介となった。

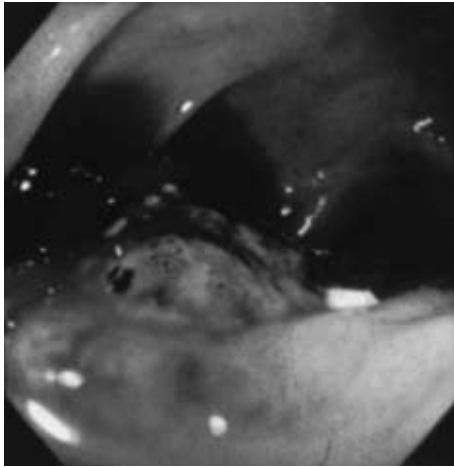
現症: 右上腹部に軽度の圧痛を認めるも、腫瘤を触知せず。Virchow リンパ節腫大もなく、直腸指診で、Douglas 窩に腫瘤を触れず、さらに肛門側に正常粘膜を通して硬結を触知した。

臨床検査値: 血清 CEA 値 < 1.0ng/ml, 血清 CA19 9 値 46U/ml であり、血清 CA125 値は 365U/ml と上昇。赤血球 $204 \times 10^4 / \text{mm}^3$, Hb 7.5g/dl, と貧血を認めた以外、臨床血液検査所見に異常を認めず。

上腹部CTスキャン: 腹水は認めず、右腎臓下極の高さで、上行結腸に約4cm 大の壁外性を疑う腫瘤像を

< 2000年3月22日受理 > 別刷請求先: 亀山 雅男
〒537 8511 大阪市東成区中道1 3 3 大阪府立成人病センター第1外科

Fig. 2 Endoscopic examination revealed a type 2 cancer of the ascending colon.



認めた (Fig. 1).

大腸内視鏡検査：上行結腸に管腔の約半周を占める隆起主体の2型進行癌と診断。生検組織所見では比較的明るい胞体を持つ異型細胞が乳頭管状増殖を示す高分化腺癌であった (Fig. 2)。

腔所見：生検組織診は、壊死組織のみで癌細胞を認めなかった。血清CA125値が高値でありながら、腔断端の再燃が確認されず、子宮体癌の腹膜播種再発あるいは大腸転移も念頭におき開腹した。

手術：1998年4月13日、結腸右半切除施行。漿膜面が白色を呈した放射線療法の影響と思われる小腸の癒着がみられたが、腹水はなく腹膜播種も認めなかった。腔断端部は直腸前壁と膀胱にはさまれるようにして強固に癒着しており、これらを剝離した後に腔断端部の術中迅速組織検査を施行した。大部分は壊死巣であったが、一部に腺癌を認め子宮体癌の再燃を確認した。一方、上行結腸の間膜反対側に6cm大の腫瘤を認め、結腸右半切除を施行した。さらに、リンパ節腫大を認めなかったが定型的にD3郭清を行い、回結腸動脈の結腸壁在リンパ節#201および回結腸根リンパ節#203のリンパ節術中迅速組織検査を施行したところ、悪性リンパ腫の所見を得た。そこで、旁大動脈リンパ節のサンプリングを行ったが、同様の組織所見を得た。

病理組織学的所見：大腸切除標本の粘膜面には4.2×4.0cm大の潰瘍を認めるものの、潰瘍に接する粘膜には変化を認めなかった。剖面像では、腫瘍の主座は粘膜下層から漿膜下層にあり、6.0cm大の粘膜下腫瘍

Fig. 3 Macroscopic view of cross section (lower) showed submucosal tumor that is 6cm in diameter.



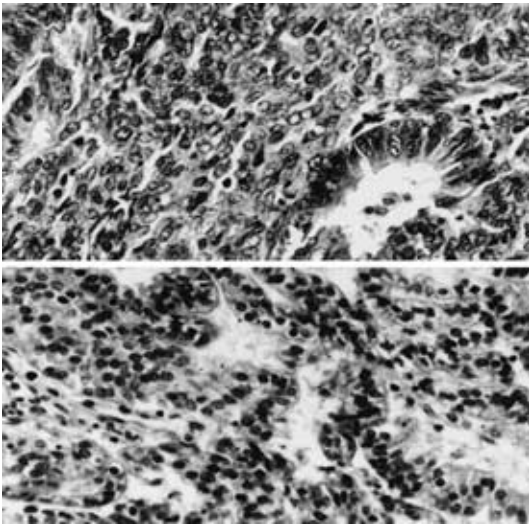
の像を呈していた (Fig. 3)。

組織像は、乳頭状に増殖する高分化腺癌であり、正常の大腸上皮とは連続性を持たず圧排性増殖しており、粘膜面の潰瘍は腫瘍細胞の下からのふきあげによる圧迫壊死の像を呈していた。この病巣は、3年6か月前に切除した子宮体癌の組織像および術中の腔断端再発の組織像と同様の像を呈しており、子宮体癌の大腸転移と確認した (Fig. 4)。

一方、リンパ節内には腺癌細胞の転移を認めず、正常の濾胞構造が残存するものの、濾胞間のT細胞領域に大型で核のくびれを伴う異型細胞が増殖する像を認めた。免疫組織学的には、この異型細胞の50%以上がKi 67陽性であり、さらにUCHL 1(+), CD3(+), CD79α(-), L2α(-)であることより、Non-Hodgkin lymphoma, diffuse large cell type, T cell typeと診断した (Fig. 5)。

術後経過：術後合併症なく第14病日に退院し、外来にて5FU+CDDPの化学療法後、1年7か月経過した現在も再燃傾向なく生存中である。

Fig. 4 Microscopic findings of ascending colon tumor (upper) was a well differentiated adenocarcinoma same as the endometrial tumor (lower)



考 察

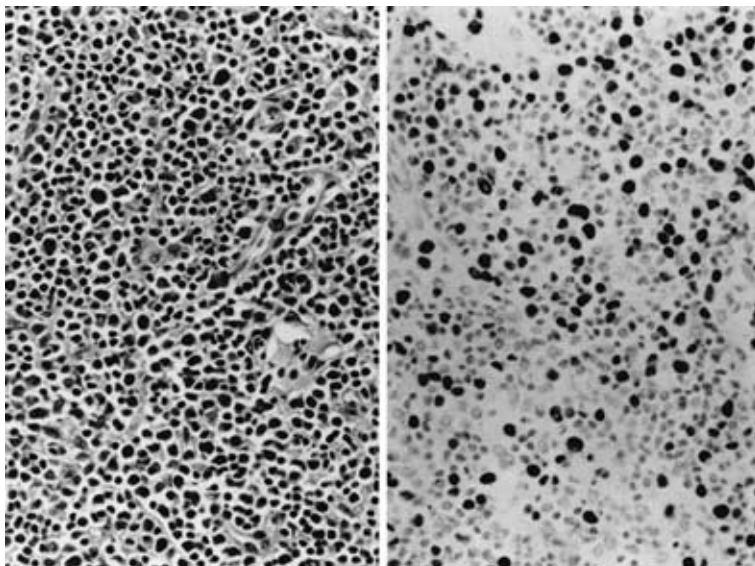
岡部ら³⁾によると、転移性大腸癌は全剖検例中の0.6%にすぎなかったと報告している。このため他臓器から大腸への孤立性転移の報告は症例報告的な例が多

い³⁾⁻¹²⁾。これらの原発巣としては、石川ら¹³⁾は胃41%、卵巣・子宮頸癌34%、太田ら¹⁴⁾は胃66%、卵巣・子宮頸癌14%と報告しており、胃が最も多く、次いで卵巣・子宮の婦人科領域の癌が多い。しかしながら、子宮体癌の大腸転移はまれで²⁾、自験例を含め本邦において2例しか見あたらない。

転移形式に関しては、子宮頸癌の大腸転移は血行性転移の形をとり、腸閉塞・腸重積で発症しやすいとされている¹⁵⁾。本症例の場合、子宮体癌手術時リンパ節転移を認めておらず、摘出された上行結腸の所属リンパ節には悪性リンパ腫のみで腺癌の転移がなかったことからリンパ行性は否定的である。また、解剖学的にも子宮から近いこともあり、播種性の可能性も否定しえないが、上行結腸の癌病巣は主に粘膜下層および漿膜下層に広がっているものの漿膜面には癌が露出しておらず、その他の部位にも播種巣を認めなかった。よって、本症例は血行性に大腸に転移した可能性が高いと推測される。

一方、子宮体癌と悪性リンパ腫合併の本邦報告は散見される¹⁶⁾¹⁷⁾。重複癌の定義としてWarrenら¹⁸⁾が「各腫瘍は互いに離れた場所にあり、一方の腫瘍が他方の腫瘍の転移でない」と述べているが、最近では重複癌の中に癌腫のみならず、リンパ腫のような非上皮性腫

Fig. 5 Microscopic findings of lymph node showed the proliferation of large atypical cells in the T-cell area between the sinus. Left : H. E. stain, Right : Expression of Ki 67 in ABC stain



瘍も含めて取扱うのが一般的であり¹⁹⁾、自験例も重複瘍の範ちゅうに入りうる。このように、悪性腫瘍が重複して発生した原因としては環境、遺伝や免疫能低下に加えて、放射線や化学療法による誘発などが挙げられ^{16,20)}、その発生機序としては、放射線治療や化学療法(主にアルキル化剤、抗癌抗生物質)によりDNAが損傷を受け、修復過程で突然変異を起こして癌化するという考え方が一般的である²¹⁾。実際、名倉ら²²⁾は全国64施設のアンケート調査を実施し、造血器腫瘍を続発した固形癌(1次腫瘍)の調査において、1次腫瘍に対し化学療法が放射線療法のいずれかを受けた施行群と非施行群との比較検討を行っている。それによると、女性では施行群が51例と非施行群(11例)に比べ多くみられた。特に、子宮癌術後においては、施行群が20例と非施行群の2例に比べ、かなり多く造血器腫瘍を続発している。アンケート調査では、施行群と非施行群の母数の記載がなく、化学療法や放射線療法によるものと、かならずしも断定しえない。しかしながら、本症例でも、子宮体癌の再発に対してアルキル化剤の投与および放射線治療が行われており、乳癌、子宮癌、喉頭癌などのように放射線療法や化学療法が奏効しやすく、比較的予後の良好な癌患者に対しては、特に造血器腫瘍を念頭に置いたフォローが望まれる。

文 献

- 1) Balthazar EJ, Rosenberg HD, Davidian MM: Primary and metastatic scirrhous carcinoma of the rectum. *Am J Roentgenol* 132: 711-715, 1979
- 2) 大腸癌研究会編: 大腸癌取扱い規約. 改訂第6版. 金原出版, 東京, 1998
- 3) 岡部 聡, 呉 鐵仁, 兼信正明ほか: 子宮体癌のS状結腸癌転移の1例. *消外* 16: 1471-1477, 1993
- 4) 井上育夫, 更科広実, 斉藤典男ほか: 転移性大腸癌の臨床病理学的検討. *日本大腸肛門病会誌* 40: 186-191, 1987
- 5) 福家博史: 佐藤兵衛, 西田龍三ほか: 胃癌手術14年後に発見されたlinitis plastica型転移性大腸癌の1例. *癌の臨* 32: 2009-2014, 1986
- 6) 南方良章, 小林秀机, 杉田孝和ほか: 小腸大腸転移をきたした肺癌の1例 自験例および本邦報告例の検討. *和歌山医* 40: 763-771, 1989
- 7) 板倉 滋, 香川幸司, 石田尚志ほか: 進行胃癌の術後4年目に認めたびまん浸潤型を呈した転移性大腸癌の1例. *島根医* 11: 207-209, 1991
- 8) 力武 浩, 納富昌徳, 平木幹久ほか: 胃癌治癒切除後の転移性大腸癌の2手術例. *日臨外医会誌* 53: 405-410, 1992
- 9) 腰塚浩三, 伊従敬二, 萩原 純ほか: 乳癌大腸転移の1例. *日臨外医会誌* 54: 651-654, 1993
- 10) 相川隆夫, 田崎 修, 檜垣直純ほか: 乳癌原発転移性大腸癌の1例. *日臨外医会誌* 54: 2329-2333, 1993
- 11) 楠山 明, 梨本 篤, 西村 真ほか: 胃癌術後孤立性大腸転移の1切除例. *臨外* 51: 1051-1054, 1996
- 12) 西田典史, 長浜実穂, 戸田慶五郎ほか: 肺へん平上皮癌の大腸転移の1例. *臨放線* 42: 619-622, 1997
- 13) 石川 勉, 縄野 繁, 水口安則ほか: 転移性大腸癌の形態診断. *胃と腸* 23: 617-631, 1988
- 14) 太田博俊, 畦倉 薫, 関 誠ほか: 転移性大腸癌の臨床病理. *胃と腸* 23: 633-643, 1988.
- 15) Fraser AM, Morgan MN: Secondary carcinoma from the cervix involving the large bowel. *Br J Surg* 56: 317-318, 1969
- 16) 奥井雅憲, 川浦昭彦, 平川博之ほか: 症例からえられる消化管疾患のポイント(47)異時性三重癌(子宮体癌, 胃悪性リンパ腫, 大腸癌)の1例. *診断と治療* 28: 2537-2539, 1990
- 17) 清水聡子, 菊池 新, 山田春義ほか: 子宮体癌術後に生じた悪性リンパ腫の1例. *臨皮* 47: 1125-1128, 1993
- 18) Warren S, Gates O: Multiple primary malignant tumors. A survey of the literature and a statistical study. *Am J Cancer* 16: 1358-1414, 1932
- 19) 浜田政彦, 菅原 努: 臨床よりみた重複癌. *癌の臨* 30: 1473-1474, 1984
- 20) 戸川 敦, 長谷川浩一, 三竹啓敏ほか: 慢性骨髄性白血病と胃癌重複例における染色体分析. *日血会誌* 44: 590-594, 1981
- 21) 阿部達生, 津田昌一郎, 瀧野辰郎: がん化学療法における二次白血病. *癌の臨* 30: 1543-1552, 1984
- 22) 名倉英一, 川島康平: がん治療における二次発がん 造血器腫瘍. *臨と化療* 13: 1464-1474, 1986

A Case of the Metastatic Colonic Carcinoma from an Endometrial
Carcinoma with Malignant Lymphoma

Takeshi Tsugawa^{1,2)}, Masao Kameyama¹⁾, Kohei Murata¹⁾, Hiroaki Ohigashi¹⁾,
Masahiro Hiratsuka¹⁾, Yo Sasaki¹⁾, Toshiyuki Kabuto¹⁾, Osamu Ishikawa¹⁾,
Shingi Imaoka¹⁾ and Tsutomu Kasugai²⁾
Department of Surgery¹⁾, and Department of Pathology²⁾,
Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases
Department of Surgery, Yoshida Hospital³⁾

A rare case of metastatic carcinoma of the ascending colon from an endometrial carcinoma with malignant lymphoma is reported. The patient, a 58-year-old woman, underwent a semi-radical hysterectomy for endometrial carcinoma. The pathological diagnosis was a well-differentiated adenocarcinoma. Two years and 8 months after the primary surgery, recurrence of endometrial carcinoma was found in the pelvis. We administered CDDP 120 mg and CPA 1,000mg intravenously for three courses, and irradiation of 60 Gy. One month later, we found a tumor in the ascending colon. The pathological diagnosis obtained from an endoscopic biopsy was a well-differentiated adenocarcinoma, the same as the previous endometrial carcinoma. A right hemicolectomy was performed, and a specimen of regional lymph nodes revealed a malignant lymphoma. The patient is now alive without signs of recurrence one year and 7 months after the second surgery. It is supposed that chemotherapy or irradiation may cause metachronous carcinoma. It appears to be important that not only carcinoma but also hematological malignancies should be taken into consideration after chemotherapy and irradiation.

Key words : metastatic colonic carcinoma, endometrial carcinoma, malignant lymphoma

[Jpn J Gastroenterol Surg 33 : 1539-1543, 2000]

Reprint requests : Masao Kameyama Department of Surgery, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases

1-3-3 Nakamichi, Higashinari-ku, Osaka, 537-8511 JAPAN
